

大木昭一郎教授・大橋泰二教授・青木栄一教授退職記念号に寄せて

2003年度末をもって、大木昭一郎・大橋泰二・青木栄一先生が定年退職されました。大木先生は1994年4月、文化情報学部創設と同時に着任され、大橋・青木両先生は1996年4月に就任されました。以来10年近くの間、三先生は、日本で初めての学部である文化情報学部において、その創設時の任務を大変なご苦勞を持って果たしてこられたことに対し、心から感謝申し上げます。

大木昭一郎先生は、文化情報学部におけるこの10年間で、「まさに光陰矢のごとしでありました」と「文化情報学部における私の10年」(『文化情報学』第10巻第2号)で回顧しておられますが、文化情報学部のみならず駿河台大学に対しても学生部長、学部長として大きな貢献をなされました。先生は、学生部長として公認団体を中心とする課外活動の適正化や健康相談室の充実を、学部長としてカリキュラム改革を中心とする学部教育の充実に力を尽くされました。また専門のスポーツの分野においては、駿河台大学のスポーツ振興のためスポーツ推薦入学制度をつくり強化指定クラブ制を実施するなど、さまざまなアイディアを実現されましたが、なかでも力を注いだのは女子ホッケーであり、実際に大きな成果を挙げられました。

大橋泰二先生は、大木先生に続いて学部長に就任されました。カリキュラム改革で教務委員長を勤められた後の学部長就任ですから、新カリキュラム実施については多くのご苦勞があったと察せられます。また先生は学部では、観光情報論・観光産業論・ホスピタリティ経営論などを講じられましたが、なかでも観光インターンシップを担当されて、箱根のホテルでの一ヶ月近いインターンシップを実現させたことは印象的です。インターンシップそのものが定着していない中でこのことから、先生の先見性と教育に対する情熱を痛感させられました。また先生は『文化情報学』に、「Implications for Sustainable Tourism Development—with a Special Reference to Indonesia」「ヴェトナム観光開発の課題と展望」などの論文を寄稿されています。

青木栄一先生は、文化情報学部では文化地理学・観光情報資源論・交通情報論・産業文化遺産論などを担当され、1999年からは大学院でも学生の指導に当たられました。飄々とした雰囲気からは想像もできない学問的情熱をお持ちであったことは、毎年『文化情報学』に掲載される研究業績一覧によって明白です。毎年数ページにわたる研究業績に圧倒され刺激を与えられたのは私だけではないと思いますが、多忙な教員生活や学会活動を縫って行われた研究の一部は、『文化情報学』に「鉄道忌避伝説に対する疑問—補遺—」「3フィート6インチ・ゲージ採用についてのノート」として発表されました。先生の鉄道に対する愛情がうかがえる論考です。

大木・大橋・青木三先生は、学生に対して厳しく熱心な先生でした。文化情報学部では創設以来ファカルティ・アドヴァイザー制を採ってきましたが、三先生は、学生の研究・教育指導にとどまらず生活指導にいたるまで、長い間の教育経験を生かしてご指導いただきました。卒業生の心に残る先生でした。学生とともに三先生に対してお礼申し上げたいと思います。

最後に、大木昭一郎先生、大橋泰二先生、青木栄一先生の今後のご健康とご活躍をお祈りいたします。

2005年2月15日

文化情報学部長 広瀬順皓